

## 行財政改革PDCAシートの基本的な考え方

### 1 進捗状況の考え方

各連番が次の（１）～（６）のどれに当てはまるかを判断し、それぞれに示した方法で住民に分かりやすい説明となるように作成してください。

#### （１）実施済みの項目

- ・実施結果を記載する。
- ・目標への到達状況を記載する。
- ・数値目標を定めていたものは、具体的な数値を用いて目標への到達率を記載する。
- ・実施済みだが結果が思わしくない、目標への到達率が低い場合などは、その理由を示すとともに今後の取組についての見直し等の方向性を記載する。また、必要があれば新たな個票を追加する。
- ・目標に到達した場合は、更に高い目標設定が可能かどうか検討し、その方向性を記載する。また、必要があれば新たな個票を追加する。

#### （２）実施中の項目

- ・実施状況を記載する。
- ・目標への到達状況を記載する。
- ・数値目標を定めていたものは、具体的な数値を用いて現時点での目標への到達率を記載する。
- ・実施中の状況が思わしくない、このままでは目標への到達が見込めないなどと推察されるものは、その理由を示すとともに、必要があれば取組内容の見直し等の方向性を記載する。

#### （３）実施期間前の項目（検討中のものを除く）

- ・実施に向けた準備内容を記載する。

#### （４）検討済みの項目

- ・検討結果を記載する。
- ・検討の結果、実施することとしたものは、実施内容を個票に追加する。
- ・検討の結果、実施しないこととしたものは、その理由を記載する。

#### （５）検討中の項目

- ・検討経過を記載する。
- ・検討が停滞している場合は、停滞している理由や課題・問題となっている事項を記載する。
- ・検討期限よりもかなり早く検討が終わりそうな場合は、その後の予定を記載する。
- ・予定していた検討期限を超え、更に検討期間を要することとなりそうな場合は、その理由を示すとともに、見直し後の検討期間とその後の予定を記載する。

#### （６）検討期間前の項目

- ・検討に向けた準備内容を記載する。

## 2 進捗率の考え方

平成23年度から平成27年度までの計画期間（5年間）における目標への到達度合をパーセント表示で記載してください。記載に当たっては、数値目標の設定の有無によって次のとおり判断してください。

### (1) 数値目標（実施割合等の率、効果額等の金額など）を定めている場合

プラン（個票又は付属資料）に掲げた現状の数値（平成22年度又は平成23年度実績）から最終目標数値への到達率を、初年度から当該実施年度までの進捗率として年度ごとに記載する。

また、実施年度において既に予算措置を行っているものは、予算執行後の到達率の50%を進捗率に合算して計上する。

### (2) 数値目標を定めていない場合

次の区分により、初年度から実施年度までの進捗率を年度ごとに記載する。

進捗率 の目安	検討または計画等策定段階の進捗率 < 1の(4)~(6)に当たる事業 >	取組段階の進捗率 < 1の(1)~(3)に当たる事業 >
—	検討期間前	実施期間前
0%	未着手	未着手
20%	着手したが、まだ情報収集中であるなど、具体的な検討や策定の取り組みに至っていない段階	着手したが、予算措置、例規の整備、関係機関との調整など、実施に向けた条件整備等を行っている段階
40%	検討あるいは策定が半分も終わっていない段階	具体的な取組を開始したが、まだ効果の創出に至っていない段階
60%	検討あるいは策定の半分以上が終わっている段階	多少効果が見え始めた段階
80%	検討あるいは策定がほぼ完了しているが、公表するには不十分な段階	一定の効果を創出しているが十分とは言えない段階
100%	検討結果または策定した計画や方針を公表・事業実施できる段階	十分な効果を創出している段階

## 3 効果額の考え方

効果額は、基本的には収入の増加額又は支出の削減額のことを言いますが、複数年度にわたる計画では条件整備等による支出の増加により、一時的にマイナスとなることも考えられます。記載に当たっては、次を踏まえてください。

### (1) 効果額欄に記載する金額について

前年度実績における支出の削減額、収入の増加額及び支出の増加額を合計し、計画期間内の実績を合算したものを累積効果額として記載する。

### (2) 予算措置により当該年度中に見込まれる効果額について

予算を措置することは、当該年度の数値目標を定めることとも言い換えられるため、措置された予算額に基づいて当該年度中に見込まれる効果額を算出し、具体的取組内容欄に記載する。